

課題研究報告

座 長 集 約

山形大学医学部附属病院放射線部 江口 陽一

本課題研究は、PCI 時の透視時間に影響する因子を調査したものである。5施設 119 例の調査の結果、平均透視時間が 19 分で、そのうちガイドワイヤの病変通過に 5 分、血管拡張に 4.1 分とこのふたつの操作で総透視時間の半分近い時間を要していた。また、病変形態が透視時間に大きく影響していた。

心臓カテーテル検査で患者の受ける被曝線量は、検査を目的した場合は撮影による線量が透視での線量を上回るが、PCI 時には、透視線量が撮影線量を上回ることが多い。PCI 時の透視時間に影響する因子を調査し、被曝低減を検討していくことは重要な課題である。今回の調査結果より、透視時間が病変形態に大きく依存していることがわかった。治療の難しい症例では、術者の被曝低減対策だけでは限界があると思われる。今後さらに装置面からの被曝低減対策を行うことが重要と考える。

本課題研究の内容と似た論文が British Journal Radiology, 76(2003), 473-477 に掲載されている。本課題研究も平成 17 年度にさらに症例数と検討項目を増やして、その成果を論文として投稿されることを期待する。

質問 1 (大阪市大：市田) 今回の結果から適切な透視時間を導きだす考えはあるのか。

回答 今後 500 症例ぐらいのデータを集め、治療成績を加味した適切な透視時間を導きだしたい。

質問 2 (戸田中央総合病院：太田) 透視の X 線入射角度で線量は測定しているのか。

回答 線量の調査はしていない。